

寛さまを正しく崇敬できれば、このせち辛い世の中を、騰々と生きられるようにも思えてなりませ
ん。大言壮語をお許ください。

定例理事会

開催日時 平成3年5月7日(火) 13:30～13:50

開催場所 三条ロイヤルホテル

出席者 今井克義 本間茂男 平松利朗 堀川正幸 丸山誠一 佐藤啓策
羽賀一夫 笹原勝治

議 事 5月中のプログラムについて

報告事項 三条RCチャーターメンバーの齊藤権八会員ご逝去に際し弔電をうちました。

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるかどうか

5月14日例会： 会員卓話「三条ミュージックキャンプを終えて」丸山誠一君

5月21日例会： 座禅例会 於宗正寺



三条北ロータリークラブ週報

ロータリーを高めよ、
思いを尽くし、熱意を尽くし!!

国際ロータリー会長 パウロ V. C. コスタ 第256地区ガバナー 原 猛

例会日
1991. 5 . 7
累計 No 218
当年 No 42

会長/今井克義

幹事/本間茂男

SAA/堀川正幸

例会日/火曜日 PM12:30～1:30

例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局/三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行 事： 「良寛とわたし」新潟中央短期大学講師 若槻武雄殿

出 席： 本日の出席 51名中41名

先週の出席率 51名中48名 94.12%

4月の出席状況 会員数51名 例会数5回 平均出席率93.72%

先週のメークアップ： 4月24日 三条RCへ 落合益夫君 長谷川博一君

5月1日 三条RCへ 長谷川博一君

ビジター： 見附RCより 坂田亮一君

三条RCより 外山雅也君 加藤紋次郎君 大谷幸平君 石橋育於君

金沢興宗君 内山昭二君

ゲ ス ト： 新潟中央短期大学講師 若槻武雄殿

会 長 挨拶： 今井克義

“ゴールデンウィーク”皆様いかがでしたか？。しっかりと休んでじょんのびした方、行楽地へ
行かれて、へトへトになった方、あるいはこの機会に普段できなかった事、例えば本をじっくりと
読んだという人、いろいろいらっしやると思います。私は連休のうち4日の土曜日は一日仕事をい
たしました。理由は簡単です。5月はいろいろ休みが多くて、そうでないと困るからです。だから
日本人は働き過ぎと言われるんだとおっしゃる方もおいでだと思います。しかし、私は基本的には
「働かざる者、食うべからず」と考えています。ご存じのイソップ物語のアリとコウロギ（キリギ
リス？）の話と同じです。働くことしか厳しい冬に備える術（すべ）がなかったからこそ、アリは
働いたわけですし、冬をしのげたと思います。私も同じです。何か他人に抜きん出た力があればま
た別かも知れませんがそうでない者は、基本的には時間をかけて働かざるを得ません。現在、日本
人は働き過ぎである、休め休めという考え方ですが、私はどうもこの考え方には消極的です。働く
からこそ、休みが生きるのだとおもいますが…。さて、今日は「良寛とわたし」というテーマで現
在新潟中央短大の講師の若槻武雄さんの卓話です。現代にもし、良寛様が生きていられたらこの働

き過ぎという考え方にどのような意見をもったでしょうか？。 “焚くほどは、風がもてくる落ち葉かな”と歌った。良寛様は、どうも我々凡人が生活のために、汗水流して働く生活とは少しかけ離れた世界に生きた方のように聞いていますが、いかがなものでしょうか。先週の佐藤啓策さんの話の中で、現在の若者、新人類の考え方は就職しなくても食べていける、自分が休みたいときに休み、辞めたい時に辞める、いやな仕事を続けたくない、自分のためにのみ働くとのことですが、どうも良寛様はこちらの方に拍手をされる方の方ですが、そんなことも含めて、お話しをお願いいたします。若槻先生は前の図書館長でいらっしゃいますが、私も高校生時代図書館通いをいたしまして、その頃から顔をよく存じ上げています。図書館へ通ったなどという聞こえは良いのですが、東高の生徒と机を並べられるということが第一の目的、そして並びながら眠狂四郎などを読みまくっていたという、良き時代でした。もっとも、そのために人が休める時も働かなければならないような能無しになったと反省しています。さて今週の土・日曜はいよいよ「三条ミュージックキャンプ」です。皆様方には、ご夫人方も含めてご協力をお願いしています。BOXの方もあと一歩というところです。宜しく申し上げます。

幹事報告： 本間茂男

◇例会変更

巻RC

日時 5月23日（木） 休会

日時 5月26日（日）・27日（月） 研修旅行のため

吉田RC

日時 5月18日（土）・19日（日） 一泊旅行

◇ガバナー・ノミニー事務所より

会長エレクト研修セミナー参加礼状が来ております。

◎皆出席表彰

1990.4～91.4

小林 満君 落合益夫君 本間建雄美君 石川勝行君

ニコニコボックス：

今井克義君 先週の夫人同伴例会ありがとうございました。中学の音楽の先生方全員で20,000円のBOXへの寄金をいただきました。反省される会員が出ることを期待します。

稲田憲治君 GWは遊びまくりました。今日からは仕事まくりです。

山崎 勲君 前日は稲田さんと一緒に楽しい一夜を過ごしました。

鈴木英友君 BOXに協力して。

落合益夫君 皆出席できましたことを感謝して。

佐藤啓策君 連休を利用して平泉の中尊寺に行って来ました。運が良く、春の祭が行われてい

せんでした。桃畑の近くを通りがかり、道端におちていた桃を拾って食べていたところ、畑の番人に捕えられ、空き俵に詰められ、危うく川へ投げ込まれようとしたが、通りすがりの庄屋に助けられた話があります。なぜか良寛さまは言い訳の一つもいわず、なされるままにされていたとのことです。良寛さまにはとんだ災難で、災難に遭うときは災難に逢うがよく候といったことだったのでしょうか。良寛さまは、名主の跡継ぎができないほど役立たずの人でした。一力寺の住職になって、人々を教化電動しようと積極的に取り組もうともしませんでした。だが厳しい修行をつづけ、不自由な托鉢生活を生涯つらぬき通した。「人間の本来の生き方」を探求することにかけては、他の追随を許さない、厳しさと積極さがあったことを見逃してはならないように思います。世人は、その奥に秘められた人間本来の生き方を見抜けないで、表面的な奇行や逸話だけを診重してきたようにも考えられます。

4. むすび

良寛研究家のなかには、いろいろな評価をする人が多いようです。

・良寛さんが子どもたちと無邪気に遊んだというのが、あれは生来の自閉症から開放されるために、子どもと遊んだだけのものではないか。

・いかにも無欲に飄然と托鉢して暮らしたが、あれは百姓の忙しいときも、物をねだりながら風雅を楽しんだ乞食坊主じゃないのか。

・毛筆が素晴らしいから誰も問題にしないが、曹洞禅から見れば失敗者、落伍者にすぎなかった。

・良寛は禅によって悟らなかった。そのために人間味がにじみ出て親しみを感じ、われわれと同じ基盤で仰がれる。

・良寛と貞心尼の関係は、どこまで進行していたのだろうか。

など、いろいろ詮索されています。結局は人それぞれ、自分の身丈ほどの見方しかできないものだとされています。自分のもっている尺度で測った人間像を描き出しているのではないのでしょうか。良寛さまは、いかなる価値体系の基準で測っても測り切れない、何か不思議な魅力が残ります。理屈を越えた人徳というべきか、人間的なあたたかさというべきものが、良寛さまにはあるように思います。身なりはみすぼらしくとも、言うに言われぬ気品が漂っているように思えます。このような「不思議さ」の本質、いかに捉えようとしても捉え切れない飄々とした良寛さまの本質とは、大悟された真の禅僧であったからなのではないのでしょうか。大宇宙に息づく一人の自然人…人間が人間らしくまともに生きる教えが仏教だとされています。その教えを直接に実証するのを坐禅といわれてもいます。今井会長さんから頂いた課題、忙しい忙しいと飛び廻り、稼ぎまくっている現代人をご覧になったら、良寛さまはどうお考えだろうか。モノだ、金だ。儲った、損をしたと凌ぎを削る現代の世相に、恐らく、良寛さまが命がけで実践された人間の本来の生き方が別のところにあることに、いまこそ気付かねばならないのではないのでしょうか。お与えいただいた主題、「良寛とわたし」について、私なりに良寛さまに半歩でも近づくことができたらとの願いから、この連休の一日を小さな寺の本堂で、坐禅の真似事をさせていただいて参りました。只管打坐によって、良